

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：82651

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12527

研究課題名(和文) 失敗国家の多地域研究 新生南スーダンにおける内戦の分析と平和への展望

研究課題名(英文) Multi-disciplinary area studies of failed states: The analysis of civil wars and the prospect for peace in the new born South Sudan

研究代表者

栗本 英世 (Kurimoto, Eisei)

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構本部・大学共同利用機関等の部局等・理事

研究者番号：10192569

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：2005年まで22年間にわたってスーダン内戦を戦った南スーダンは、2011年に独立した。しかし、2013年の終わりから5年間、内戦状態に陥った。2023年5月の時点でも、和平合意は部分的にしか実施されていない。南スーダンという国家の失敗の原因は、戦時から平時への体制転換に失敗したことに帰することができる。不安定で民主的ではない体制自体が、政治・軍事的指導者が私利を得る源泉であるという状況は、2005年以降、一層顕著になった。深く分断され、敵対している国民のあいだの和解も進展しなかった。長期間にわたって人道援助と戦後復興・平和構築の援助を実施した国連と国際社会の責任も問われるべきである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

南スーダンは、2011年の独立の時点ですでに失敗国家であり、その後さらに失敗の度合いを強めていった。これは失敗国家の極端な事例であるが、その過程を、内在的と外在的両方の要因に注目し、政治的、社会的、歴史的な文脈の中で理解することは、失敗国家一般の研究を深めるうえで学術的意義が高い。また、長期間にわたり、国民を激しく分断して戦われた内戦の終結後に、国連と国際社会の関与のもとに実施される、戦後復興と平和構築の適切なあり方を追求するうえで重要な参照点になるという点で、社会的な意義も高い。最後に、失敗国家の研究は、人文学と社会科学における永遠の主題である国家に関する研究に、新たな視点をもたらす。

研究成果の概要(英文)：South Sudan, which fought the Sudanese Civil War for 22 years until 2005, became independent in 2011. This new country slid into a civil war at the end of 2013, which continued for 5 years. By May 2023, peace agreements are only partially implemented. The failure of the state of South Sudan could be attributed to the failure in the transformation from the war-time to peace-time regime. The situation of instability and inadequate democratic system that politico-military leaders could exploit for their own personal gains became even more salient after 2005. Reconciliation among deeply divided and mutually hostile peoples showed no progress. The responsibility of UN and international community, which have been engaged with long-term and massive humanitarian, post-war development and peacebuilding assistances should be also questioned.

研究分野：文化人類学

キーワード：南スーダン 失敗国家 内戦 民族紛争 権力分有 汚職腐敗 平和構築

1. 研究開始当初の背景

2011年7月にスーダンから分離独立した南スーダン共和国は、失敗国家の典型である。独立してから2年余り後の2013年12月に内戦が勃発し、5年近くにわたって続いた。建設の端緒についたばかりの国家と国民社会は崩壊の危機に瀕し、数百万の人びとが難民や国内避難民になった。周辺諸国(北東アフリカの地域機構であるIGAD諸国)、アフリカ連合(AU)や欧米諸国の調停によって、2018年8月ようやく和平合意が調印された。これは、2度目の和平合意であり、2015年8月に成立した最初の和平合意は、2016年7月に崩壊し、内戦が再燃した。2度目の和平合意は、本研究課題の開始7か月前に調印され、2か月前(2019年2月)には、ようやく暫定政府が樹立された。これは和平合意実施の出発点にすぎず、約3年間の移行期間中に実施されるべき課題は山積していた。したがって、南スーダン共和国は、国民の強い期待を託されて誕生した新生国家が短期間のうちにいかに失敗し、いかに再建されるのかを研究する上で、世界でもっとも適切な対象であるといえる。本研究課題は、以上の背景のもとに、2018年4月から開始された。また、1978年以来継続している、研究代表者の南スーダンにおける調査研究の経験が、本研究課題を推進する上での基盤となった。

2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、南スーダン共和国という新国家が、なぜ、いかに失敗したのかを分析的に明らかにすることである。第二の目的は、南スーダンにおいて、国家と国民社会の再建と持続的な平和の確立はいかにして可能かを考察することにある。以上を通じて、失敗国家の研究の進展と、現代における国家論の再構築への貢献を目指す。その際、南スーダンをたんに特殊な事例として扱うのではなく、現代の世界各地の諸国家と共通する課題を抱える政体とみなす視点が重要になる。

3. 研究の方法

人類学的フィールドワークと文献調査を混合した方法を採用した。フィールドワークは、直接観察、インタビュー、および会話や対話から構成される。多民族社会であり、貧富の格差も著しい南スーダンの状況を考慮し、できる限り多様な人びとと相互作用を持つように配慮した。また、平和構築と戦後復興に従事している、国際機関の専門家と担当者にもインタビューし、情報を収集するとともに研究課題に関する意見交換を行った。治安状況の悪さと、COVID-19の感染拡大のため、南スーダンにおけるフィールドワークの機会は、当初の予定より少なくなったが、ウガンダとケニアにおけるフィールドワークと、ソーシャル・メディアや電子メールを通じた南スーダン人の友人・知人とのコミュニケーションによって、不足分を補った。

文献調査については、南スーダンの歴史、政治や社会に関する近年の文献を最新刊のものも含めて精査するとともに、平和構築と失敗国家に関する主要文献を検討した。また、インターネット上のニュース記事や論評を常時フォローし、本研究課題にとって有用である資料と情報を蓄積した。

4. 研究成果

もっとも重要な研究成果は、以下の3論文である。

・栗本英世(2023)『小政体の文化人類学的意義 国家に抗する / を模する社会』『文化人類学』87巻3号、553-572頁。

本論文は、第17回文化人類学会賞受賞記念論文である。英訳は、2024年に日本文化人類学会の英文学会誌に掲載される予定である。失敗国家だけでなく、アフリカ一般の特徴である、国家と社会の乖離、あるいは敵対という課題を、南スーダンの一地域を事例として、人類学のおよび歴史学的に論じた。

・Kurimoto, Eisei (2022) "Eating Chiefs": Explaining Tolerance of the People of South Sudan for Bad Political Leaders. Ohta, I., F. B. Nyamnjoh and M. Matsuda (eds.) *African Potentials: Bricolage, Incompleteness and Lifeness*, Mankon: Langaa RPCIG. Pp. 143-153.

失敗国家に特徴的な「邪悪な指導者に対する寛容性」という問題を、南スーダンの政治文化という文脈で論じた。

・Kurimoto, Eisei (2021) "Peace from Below" as an African Potential: Wars and Peace in South Sudan. Endo, M., A. K. Onoma and M. Neocosmos (eds.) *African Politics of*

Survival, Mankon: Langaa RPCIG. Pp. 147-179.

内戦終結後の国家と社会にとって必須である、和解と平和構築という課題を、「下からの平和」という視点から論じ、「下からの平和」が成功するための条件を提起した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 栗本英世	4. 巻 7
2. 論文標題 人間科学型の共創および共創知をめざして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 未来共創	6. 最初と最後の頁 3-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗本英世	4. 巻 -
2. 論文標題 違和感、不快感と不断の交渉 共生の相互作用的基盤について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 共生学宣言（大阪大学出版会）	6. 最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗本英世	4. 巻 87(4)
2. 論文標題 小政体の文化人類学的意義	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 553-572
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Kurimoto, Eisei
2. 発表標題 Rediscovery, Revitalization and Utilization of Traditional Conflict Resolution Mechanisms (TCRMs) in South Sudan
3. 学会等名 Seminar on "Traditional Conflict resolution and the Role of UN Missions," Department of Peace Operations, UN, NYC (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Eisei Kurimoto	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 331
3. 書名 Chapter 6. INGOVERNMENTALITY. 'Eating Chiefs': Explaining the Tolerance of the People of South Sudan for Bad Political Leaders, Ohta, I., F. B. Nyamnjoh and M. Matsuda (eds), African Potentials: Bricolage, Incompleteness and Lifeness	

1. 著者名 栗本英世、モハーチ・ゲルゲイ、山田一憲 (編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 222
3. 書名 争う	

1. 著者名 村橋勲、伊東未来、中川理、栗本英世 (編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 312
3. 書名 かかわりあいの人類学	

1. 著者名 Kurimoto, Eisei et al.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 290
3. 書名 African Politics of Survival: Extraversion and Informality in the Contemporary World	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------